

第 2 回札幌市国際戦略プラン懇談会 発言のポイント

ポイント	委員の発言	備考
海外との接点の少なさ	<ul style="list-style-type: none"> -北海道の人は外へあまり出て行かない。(石井座長) -パスポート発給者数も比較的少ない。(石山委員) -市民にとって「国際化」が身近な問題になってこない。(石井座長) 	
若い年代の人材育成・国際感覚醸成	<ul style="list-style-type: none"> -2050 年ごろに経済を担う若い世代が「国際化」の考え方を自然に持っているべきであり、確実に届くためには、義務教育や高等教育の中で国際化について浸透させていくべき。(石山委員) -若い人に道外、海外への視点を持ってほしい。(佐藤委員) -教育機関の人が世界に出て、知ったことを伝えるという方法もある。(張委員) 	
札幌のアイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> -札幌市民としてのアイデンティティを確立していない。(雨貝委員) -他者との比較があつてこそ自分を発見できる。(熊谷委員) -多くの転入者を受け入れながら発展した街。「文化の交差点」としての札幌という方向性。(木村委員) -「自然と文化」が一つのワードになる。札幌の強みを意識するのが良い。(加藤(丈)委員) -札幌市を特色づけるキーワードが必要。(石井座長) 	
札幌のライフスタイル (札幌の良いところ)	<ul style="list-style-type: none"> -札幌には春夏秋冬がある。どうやってアピールするかが重要。(雨貝委員) -空気が良い、水がおいしい。自然に近い都会である(張委員) -札幌といえば「雪」と思っている。(石井座長) 	
経済	<ul style="list-style-type: none"> -暮らす上でどうやってお金を稼いでいくのかという要素の検討が必要。査証特区の動きも必要。(石山委員) -良さの認識を外の視点でアピールすることに意味がある(石井座長) -人の交流で経済を活発化したい。(佐藤委員) 	

ポイント	委員の発言	備考
受け入れ体制	<ul style="list-style-type: none"> -LCC の就航で、外国人が飛躍的に増える可能性がある。インドや東南アジアも含め、各宗教への対策をしっかりと取るべき。(石山委員) -ホスピタリティについて、接客などだけではなく、受け入れる土壌やインフラ全体を含めて考えるべき。(加藤(由)委員) -通訳の数と質を高める必要がある。(張委員) 	
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> -中東など暑い地域の富裕層にアピールしてはどうか。(佐藤・熊谷委員) -札幌は積雪寒冷地としての取り組みはあまり盛んではないと思う。(石井座長) 	
指標	<ul style="list-style-type: none"> -外国人の割合だけを見るのは危険。都市によって産業構造が異なる。意識調査はコストの割にあまり意味がないかもしれない。(石井座長) -企業のインターンシップを進めることで外国人(留学生)の増加につなげられるのではないか。(熊谷委員) -広告媒体にどれだけ出したか、という調査もある。(加藤(由)委員) 	
連携	<ul style="list-style-type: none"> -他の自治体との連携が大切。相乗効果を狙うなど積極的に盛り込んでほしい。国内外の他の都市と組むのもよい。(石井座長) -企業誘致についても、港や空港がある石狩市や千歳市、札幌の後背地にある工業団地との連携が大事。(佐藤委員) -国際会議の誘致では、国との連携が重要である。(石山委員) -NGO や市民団体との連携を加えてほしい。(加藤(丈)委員) 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> -文化や芸術の部分というのは、一つの方向性としてはあるのかもしれない。(石井座長) 	